

のこりがよすぎる木棺とそのなかから…

木は土のなかだと数十年もすれば腐ってなくなってしまいます。しかし、富雄丸山古墳では、木棺が粘土でバックされていたこと、銅鏡に含まれる成分に殺菌効果があったことで状態よく木棺（コウヤマキ材）がのこっていました。また、内部をしきるための板などもほぼ完全な形でのこっていました。中央部には赤色の朱がみつきり、付近を分析するとカルシウムなどの人骨にかんする成分がみつっています。足元付近には、櫛が臼点みつきりました。櫛は髪飾りなのになぜ足元にあるのでしょうか？われわれもまだわかりません。

さらに足側の区画から、3面の銅鏡が重なって出土しました。いま、どのような銅鏡なのかを分析しています。発表をたのしみにしてくださいね！



3面かさなって出土した鏡



木棺のなかのようす

時代をリードする埴輪

教科書などでよくみる埴輪は、人や動物をかたどったものではないでしょうか？じつはそういった埴輪は全体のごくわずかです。古墳でみつかるとは、円筒埴輪とよばれるもので、古墳をかこむために大量につくられます。4世紀中頃になると、円筒埴輪の両側にヒレをつけるものが流行ります。でも、今も昔も同じでちょっとかわったものは流行るのも、あきるのもはやいのです。富雄丸山古墳は3段になっていますが、上から2段はヒレ付円筒埴輪をならべていますが、下段はヒレのない円筒埴輪です。おそらく、上のほうからつくって置いていくので、とちゅうでめんどくさくなったのか、うまくいわずして楽してやろうとしたのか…とうじの人にきいてみたいところです。



埴輪列とヒレ付円筒埴輪

富雄丸山古墳って、ほんとうにスゴイね！

ドキドキしてきたなあ！



しまろくん ©奈良市観光協会

奈良市 富雄丸山古墳をまなぶ

「発掘するとなにかでてる」といわれるほど、奈良市にはたくさんの遺跡があります。「富雄丸山古墳」は、これまであまり知られていませんでしたが、最近の調査で世界からも注目される古墳であることがわかってきました。なにがスゴイのか、この冊子をもとにまなんでみましょう！



しまろくん ©奈良市観光協会

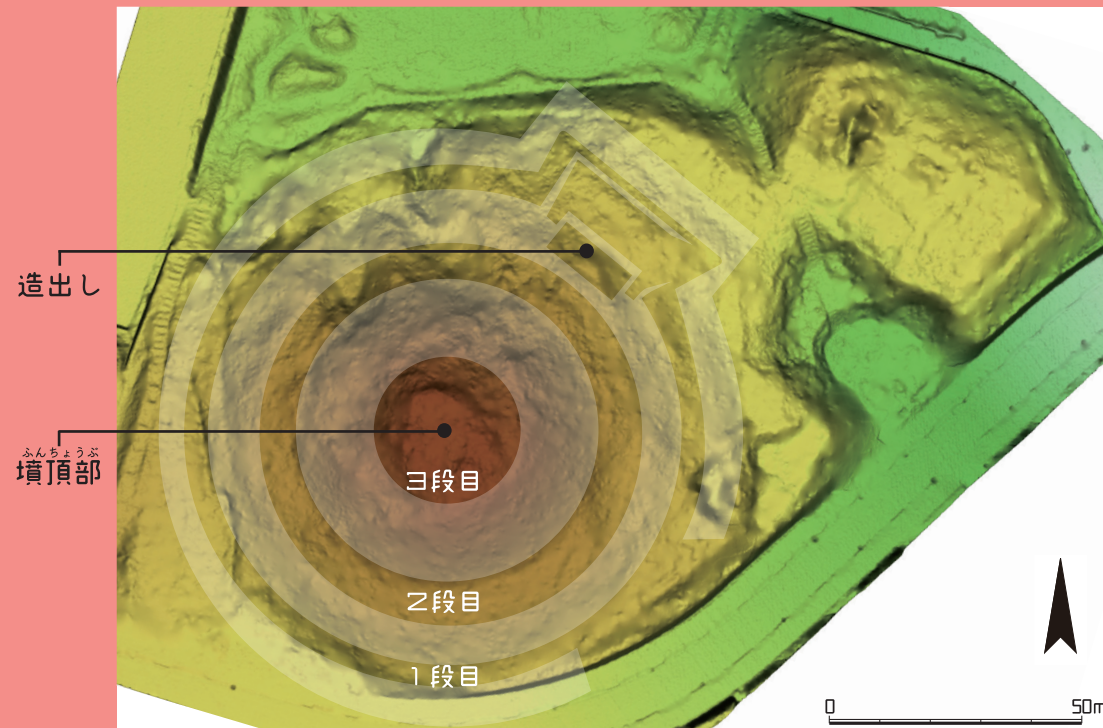
奈良市にそんなスゴイ古墳があるんだ！
どんな古墳なのか
いっしょに学ぼう！



そらからみた富雄丸山古墳

日本最大の円墳

古墳にはいろいろな形がありますが、最も数が多いのは円墳です。富雄丸山古墳では、2017年に航空レーザー測量、2018年から発掘調査を行い、直径約109mであることがわかりました。これまで最大であった埼玉県の丸墓山古墳（105m）をこえて、日本最大の円墳となりました！また、北東部には「造出し」とよばれるはり出しがあることもわかりました。



日本最大？！

とてもえらい人
だったのかなあ？



しまろくん ©奈良市観光協会

世界最大の蛇行剣が出土

2022年度の発掘調査では、造出しで新たに埋葬施設がみつかりました。通常、古墳の埋葬施設は頂上につくられます（富雄丸山古墳にもあります）が、盗掘されているばあいが多いです。今回みつかった造出しの埋葬施設はまったくあらされていない状態でした。調査を進めると、木棺をおおっている粘土のなかから、鉄でつくられた剣がみつかりました。ふつうの剣はまっすぐですが、蛇のようにまがりくねった形をしていて蛇行剣とよばれています。おどろくのはその長さで、全長約285センチあります。これまで日本でみつかった最大のは120センチほどで倍以上あり、日本最大であることはもちろん、世界的にみてもとうじとしては最大の剣とみられます。



237センチ（鉄身部分の全長）

285センチ（装具をふくめた全長）

世界でコレだけ！ 龍文盾形銅鏡が出土

古墳に埋葬された人のものとして鏡と一緒にうめられることはよくありますが、鏡はふつうであれば円形がおおく、中国などで長方形のものがわずかにしられています。

蛇行剣と重なるようにして出土した鏡は、武具である盾の形をした世界でも例のない珍しいものです。鏡の面はツルツルに磨かれており、反対の面には龍（ワニのような龍）や太陽のような文様がみられます。富雄丸山古墳ではじめて出土したことから「龍文盾形銅鏡」と名づけました！ 長さ64センチ、最大幅31センチと鏡の面積では日本最大です。

蛇行剣も龍文も主に
日本でしか
みつかってないらしいよ！
なんでつくったのか、
奈良公園の鹿友達も
知らないかなあ？



龍文盾形銅鏡が出土したときのようす



龍文盾形銅鏡



蛇行剣が出土したときのようす

